

Frente

三重県男女共同参画センター

フレンテみえ

フレンテとはスペイン語で
「前向き」という意味です。

vol.72
2018.3

大特集
インタビュー!!

不定期連載インタビュー

フレンティが聞く!みえのひとびと第8回
人力車「なないろ」 北原 美希さん

「自分が喜ぶ毎日へ」

予告

- 女性のための自己尊重トレーニング
女性のための自己主張トレーニング など

情報コーナーだより

- 新刊紹介
『男も女もみんなフェミニストでなきゃ』
チママンダ・ンゴズィ・アディーチェ(著)
くぼたのぞみ(翻訳)
『男損』の時代「熟メン」が人生をソッしない18の知恵
牛窪恵(著)

Report!

- 女性のためのロジカルシンキング講座
- 笑顔が増える両立のヒント
～働く、育てる、暮らす。暮らしの工夫編～ など



不定期連載インタビュー
フレンティが聞く!



みえの ひとびと

第8回

全国各地の観光地などで見かける人力車。ひき手である「人力俵夫(じんりきしゃふ)」は筋骨隆々な男性を思い浮かべる方が多いかもしれませんが、皆さんは伊勢神宮近辺で人力俵夫として働く女性がいっぱいいるのをご存知ですか?

今回の「みえのひとびと」では伊勢で唯一の女性俵夫として働く、人力車「なないろ」の北原美希さんにお話を伺いました。



人力車「なないろ」 北原 美希 さん

男性の仕事というイメージのある人力俵夫になろうとしたきっかけは?

実は私は昔から運動がとても苦手で、学生時代でもできれば体育はやりたくないと思っていたし、ずっとピアノしかやってこなかったくらいなんです。そんな私が人力車に関わるようになったきっかけは、人力車で日本一周した経験をもつ男性の友人なんです。彼は当時伊勢で人力車をひいていたのですが、それ以外にも奈良県の桜井市で人力車を町おこしのために導入する活動の立ち上げ人でもありました。ただ、彼はその後桜井市には入れないので、私に「奈良で人力車をひいてみないかい」と声をかけてくれたのがきっかけです。その時私は人力車に特別興味があったわけでもなく、1度彼のひく人力車に娘と乗せてもらったことがあるくらいでした。私は人が大好きで、割と誰とでも仲良くなれるタイプだったので、体力があるだけではなく、「美希ちゃんだったらすぐにみんなと仲良くなれるんじゃないのかな」と私に声をかけてくれたみたいなんです。

最初は、運動も好きじゃなかったし「自分にできるのかな?」という想いはあったのですが、彼の「人力車は力でひくものじゃない」という言葉に、「あ、そうなんだ」と思って。それに私は昔から、やる前に断るのが嫌で、なんでもまずはやってみて、それでだめだったらその時考えればいい、というような性格でしたので、やってみようと思いました。

まずは地元の和歌山から伊勢に引っ越して、伊勢にいる彼のもとで研修をしたあとに奈良県桜井市に移りました。

最初は土地勘もなかったので人を乗せずに町を走り回りましたし、最初の2か月くらいはお金をいただくずに、町の人と仲良くなったり、たまたま声をかけてくれた人には乗ってもらう、というようなことをしていました。

町に小さな商店街があるのですが、毎日挨拶しながら人力車を走らせていると、お店の人たちとも仲良くなって、夏の暑い時期は飲み物をいただいたり、人との関わりがそこで生まれてって、地元の人たちがその土地のことを色々教えてくれました。



人力俵夫の仕事は男性社会のように感じるのですが、その中に飛び込むことや続けていくことへの不安、やりにくさなどはなかったのですか。

実は最初は人力車に誘ってくれた友人と私の2人だったんです。浅草とか京都みたいに最初から大きな会社に入ったわけじゃなく、マンツーマンで教えてもらいながらだったので、むしろ全然抵抗はなかったです。

また、やりにくい、というのとは違うかもしれませんが、やはり走る速度は男性よりは遅くなってしまいますね。体の大きい人に乗っていただく

と、平坦な道はいいのですが登り道が大変なのはもちろん、ブレーキがないので下り道にスピードが出すぎないようにするのも大変ですね。そういう時はテクニックとして、まっすぐ下るのではなくて蛇行してスピードを落としたりしています。なので体の大きい方は男性俵夫のひく人力車に乗っていただく方がいいかもしれません。ただ、景色が見たいからゆっくり進んでほしい、とか女性のひく人力車の方がいい、というようなお客さんもいますので、お客さんの希望に合わせてご案内をしています。

スタートから順調に俵夫生活を歩まれているのですね。

いえ、実は桜井市に引っ越して3か月くらいたってから正式に人力車事業の出発式を行っていただいたのですが、その3週間後に突然左半身に力が入らなくなって。病院で脳梗塞と診断され、即入院になってしまいました。まだ出発式をしてから間もないし、新聞にも載せていただいたのに、何も残せていない。だから最初は「早く現場に復帰したい」と思っていました。脳梗塞って血がどろどろのイメージかと思うんですが、むしろ私の血はサラサラで貧血気味でした。それでおかしいな、といろいろと検査を進めていたら、生まれつき心臓に穴が開いていたみたいで、そこから血栓が飛び出した奇異性の脳梗塞と言われたんです。そこからが大変で、その病院で脳梗塞の治療はしたんですけど、心臓の手術とか治療に関してはできないといわれて、奈良県の天理市にある病院に移る必要がありました。最終的に心臓の手術ができたのは、脳梗塞の治療をした翌年になってしまいました。人力車を始めてから運動するのが楽しいな、と思うようになってきて、新しく登山もはじめていたんです。やはり日本人だったら一生に一度は富士山に登りたいと思ったんですが、なかなか一人ではできませんでした。一緒に登山をしていたメンバーが毎年富士山に登っていたのを知って、ぜひ連れて行ってほしいといったのですが、まずは心臓を完治させてからね、と言われ、それで「よし、心臓を治せば連れて行ってくれるのか」と思って心臓の手術を乗り越えました。そして完治したその年のうちに富士山に連れて行ってもらいました。結構しんどかったんですが、山頂まで登頂でき、そこで感動して思わず泣いてしまいました。

それから人力車をやらないかと声をかけてくれた友人と伊勢で再会する機会があったのですが、その時に見せてもらったのが、奈良県桜井市にいたときにひいていた人力車でした。ただ、事故にあっすぎて小さくなってしまい、鉄製だったのですが色々なところが曲がってしまっただけで、ひける状態ではなくなってしまったんです。その時に友人に言われたのが、「自分が日本一周する時に使っていた人力車で事故にあっ壊れてしまったものがあるんだけど、この人力車と、部品を合体させれば、一台の人力車が出来るかもしれない」ということだったんです。この話を聞いて私は、「その人力車をひきたい」と思ったんです。

心臓の手術をした翌年に淡路島で人力車の仕事があると誘われて、私もやってみたくて、手術後初めて淡路島で人力車の仕事を

したら、体力的にもしんどくなくて、全然できる、と思ったんです。心臓の穴がふさがって、ようやく人並みになれたんでしょうかね。それでその時にひいた人力車というのが、さっきお話しした2台の人力車を合体させた、人力車だったんです。

その後、伊勢の友人から「今度は伊勢で人力車をひいてみない？」と声をかけていただいて、伊勢で人力俵夫としての生活がスタートしました。

病気を経験されてからも、とても前向きに過ごしていたんですね。

考えても仕方ないことはあまり考えずに、置かれた環境のなかでいかに楽しむか、と考えた方が面白いなと思っているので(笑)。なので病院に入院するときも、登山用のリュックに入院に必要な荷物を詰めて、診察が6階の循環器科だったので、病院の案内板を見ながら娘と一緒に「6台目登ってきまーす。」というように登山感覚でやり取りをしてました。

そうはいつでも、娘さんは北原さんのお体のことを心配しているのでは？

私は人力車をひいている時が一番楽しんでいるし、笑っているのだから、それを知っているだけに、「無理だけはしないでね」ということを言われるくらいですね。あとは私が限界を超えて、寝込んだりしている姿をこれまで見てきているので、「そろそろ自分の限界を学んでよ」ということも言われます。私と娘は性格が真逆なので、娘は結構冷静に、いい意味で私にブレーキをかけてくれます。

女性の人力俵夫の後継者というか、お弟子さんとかはいるのでしょうか。

今現在はそういう人はいません。ただ、伊勢に引っ越して来た時は、娘がまだ中学1年生で、その時は一緒に人力車をひいていましたね。今は部活が忙しくて一緒に現場に出ることはなくなりました。一緒に現場に出ていた時は子どもに人力車を体験してもらう時には、娘がひいたりしていました。もちろん私が補助をしながらですけど。

それでは将来は親子で人力車をひく姿が見られるかもしれませんね。

どうなのでしょうね(笑)、ひいてくれるかな。一緒に現場に立ちたいな、とは少し思っているのですけどね。

人力俵夫の仕事はとても体力を使うと思いますが、家事・育児などどのように両立させていますか。

最近分かってきたのですが、「今日はどんな出会いがあるかな」という気持ちで楽しみながら現場に出ると、走っていてもそんなに疲れなくて、家に帰ってからもすぐに家のことができます。でも「今日は現場に行きたくないなあ」とか「仕事をやらされている」と思っていると、とても疲れるんですよ。帰ってからも少し横にならないとしんどくなってしまいます。現場に出てきても自分のエンジンがかかってないときは、カフェに行ったり、行きつけのお餅屋さんに行ったりしながら、まずは自分を喜ばせてから仕事に入るようにしています。あとは人力車を停



めて、太閤出世餅とか赤福などのお店で食べていると、恰好が恰好なのでどうしても目立ってしまううえに人力車も見えるので、相席したお客さんから「あれ、お姉ちゃん人力車ひいてるんだ。今って乗れるの？」と声をかけてもらったりすることもあるので、やっぱり自分が楽しんでいることが良い結果につながるんだと思います。

これまでにお客さんから言われた言葉で印象に残っていることはありますか。

よく写真を一緒に撮って、その写真と一緒にお手紙を書くんですけど、それにお返事をいただくこともあります。人力車に乗ってくださるのは一区画で10~15分くらいだったとしても、そのあとにも関係が続いていくんです。その土地その土地の物を送ってくださる方もいて、私も伊勢の物をお送りしたりしています。きっかけは人力車だったけど、そこから関係が続いていって、仲良くなる方だと、「こっちに来ることがあったら、うちに泊まりにおいで」って言って下さる方もいます。手紙以外でもメールでつながっている方だと、寒い日には「今日も現場に出てるのかい？寒いから気を付けてね」って連絡をくださる方もいて、それに本当に励まされますし、これからも頑張ろう、という気持ちになります。



北原さんにとって人力俵夫の仕事のやりがいとはなんですか。

私が現場に出ている＝元気だということなんです。心も体も元気でないと人力車はひけないので。元気な状態でたくさんの方と関わって人力車をひかせてもらっていること自体が自分にとっては喜びです。喜びからさらにそれを周りの人たちにも広げていく。そうすれば先ほどお話ししたように色々なご縁がつながっていきます。それがもうたまらないですね。

いつも明るく前向きに人力車をひき、一つひとつの出会いを大切にしている北原さん。そんな北原さんだからこそ、どんどん人の輪が広がっていくのでしょうね。北原さんの人力車に乗りたい方は、以下の情報を参考にご予約または現地で直接声をかけてみてください。

人力車「なないろ」

電話：090-5365-7746

メール：ise.jinrikisya@gmail.com

料金

一区画(約10分) 3,000円(2名)
2,000円(1名)

二区画(約20分) 6,000円(2名)
4,000円(1名)

三区画(約30分) 8,000円(2名)
5,500円(1名)

その他の料金プランについてはお尋ねください。



今後の催し

5/12

平成30年度ファンファーレ事業

作家山崎ナオコーラ×社会学者田中俊之 特別対談

「ナオコーラさん、質問です。 自分らしい生き方ってなんですか？」

毎年、著名な方をお呼びして、性別にとらわれない生き方についてお話しいただくフレンテみえのファンファーレ事業。2018年度は小説『人のセックスを笑うな』(2008年に松山ケンイチ、永作博美主演により映画化)や新しい出産・子育てエッセイ『母ではなく、親になる』など多数の人気作品をご執筆された山崎ナオコーラさんにお話いただきます。



山崎ナオコーラ

エッセイスト・小説家。1978年福岡県生まれ。卒業論文は『源氏物語』浮舟論。2004年に『人のセックスを笑うな』でデビュー。著書に、小説『美しい距離』(文藝春秋)、エッセイ『母ではなく、親になる』(河出書房新社)、絵本『かわいなおとうさん』(絵 ささめやゆき)(こぐま社)など。目標は、「誰にでもわかる言葉で、誰にも書けない文章を書きたい」。

著書のなかで「おかしな性別のイメージで苦しむ人が書きたい」と語っているナオコーラさん。

「母として」「父として」など、世の中にあふれる性別のイメージやそれについてまわる役割意識など、知らず知らずのうちに私たちを縛っているものはたくさんあります。「母親なのだから家事も育児も全部やらないといけない」「父親なのだから一家の大黒柱として家族を養うものだ」などの世の中のイメージに疑問を持ち、いつも自分らしく生きるナオコーラさん。その生き方から、私たちが世の中にあふれる勝手なイメージから自由になり、自分らしく生きるためにはどうしたらよいか、一緒に考えてみませんか。

さらに今回は『男がづらいよ 絶望の時代の希望の男性学』、『男が働かない、いいじゃないか!』などの書籍を出版し、これまでの男性のあり方に一石を投じてきた、今大注目の男性学者、田中俊之さんにもお越しいただきます。

お二人の話を聞いて「本当の自分らしい生き方」のヒントを見つけてみませんか。

諸般の都合により

このイベントは **中止** となりました。

今後の予定につきましては
決定次第お知らせいたします。



田中俊之 博士(社会学)

1975年、東京都生まれ。大正大学心理社会学部准教授 男性学を主な研究分野とする。著書 『男性学の新展開』青弓社、『男がづらいよー絶望の時代の希望の男性学』KADOKAWA、『〈40男〉はなぜ嫌われるか』イースト新書、『男が働かない、いいじゃないか!』講談社プラスα新書、小島慶子×田中俊之『不自由な男たち——その生きづらさは、どこから来るのか』日本では“男”であることと“働く”ということとの結びつきがあまりにも強すぎる」と警鐘を鳴らしている

女性のための自己主張トレーニング

日時 2018年 5月9日、16日、23日、30日、6月6日
いずれも【水曜日】10時～12時

会場 三重県男女共同参画センター
「フレンテみえ」セミナー室A

講師 具ゆりさん
(ウイメンズカウンセリング名古屋YWCA フェミニストカウンセラー)

女性のための自己尊重トレーニング

日時 2018年 6月23日、30日、7月7日、14日、21日
いずれも【土曜日】10時30分～12時30分

会場 三重県男女共同参画センター
「フレンテみえ」セミナー室A

講師 杉本志津佳さん
(フェミニストカウンセリング堺 フェミニストカウンセラー)

「自己主張トレーニング」は、自分の気持ちも相手の気持ちも大切に、伝える力を身につける講座です。

「自己尊重トレーニング」は、他者からの目線に邪魔されずに本来持っている自分の力に気づくための講座です。

※自己主張トレーニングと自己尊重トレーニングは年度中どちらか一方しか受講いただけません。

速報

上記の催し以外にもフレンテみえではたくさんのイベントを開催します。今回はその一部をご紹介します。詳細は決まり次第、HPなどに掲載しますので、楽しみに!

※ 三重県内男女共同参画連携映画祭2018

予定日 2018年 6月～

※ フレンテまつり2018 With イザ!カエルキャラバン!

予定日 2018年 6月2日(土)

※ 男女共同参画フォーラム ～みえの男女(ひと)2018～

予定日 2018年 11月10日(土)

働く女性のネットワーク三重

三重県で働く
女性のみなさまへ

この会は働く女性を対象とした講座をきっかけに2017年1月に結成された企業・職種・職階・世代を超えた働く女性の集まりです。民間企業、公務員、会社経営者、フリーの専門職と様々な働く女性約90人が所属しています。

仕事で困ったときに相談できる相手がいなかったり、育児や介護との両立に疲れきっていたり、今の仕事を続けていくことに、不安になったりと自身のキャリアや職業生活と家庭の両立について悩む女性たちがゆるやかにつながって、支え合い、学び合う中で様々な課題を仲間同士で解決に導き、また、働き続ける中で培った知恵を次世代に引き継いでいくための活動の場です。

定例会を毎月第2水曜日(会場の都合により変更有)19時から、1月と6月は第3土曜日の13時30分からそれぞれ2時間、会員の企画運営で開催しています。

入会希望の三重の働く女性のみなさまは、ぜひフレンテみえへお問い合わせください。

Web限定コラム 男女共同参画ゼミ

フレンテみえは少し遠い…。
そんなみなさまへ

女性の活躍をすすめるには?男性が育児に参画するためには?イクボスになるためには?などなど…。気になることはたくさんあるけれど、どこで情報を手に入れたらいいかわからない!というそのあなた!

フレンテみえのホームページでは、県内外の専門家にご執筆いただくWeb限定コラム「男女共同参画ゼミ」を開講しています。その時々旬な話題を取り上げたこのコラム。みなさんの“気になる”がきっと見つかります。

全編無料で自由にご覧いただけますので、空いた時間などにぜひご覧ください。

こんなテーマで掲載しています

「10代の少女をとりまく現状と生きづらさについて」 橘ジュンさん(特定非営利活動法人 BONDプロジェクト代表)

「女性ホルモンのエトセトラ 今から始める幸せ体づくり」 市立伊勢総合病院 産婦人科部長 村松 温美

「なぜ男性の育児参加は難しいのか — ドイツの町から考える」 ドイツ在住ジャーナリスト 高松 平蔵 など

詳しくは「フレンテみえ」で検索!

出前フレンテ

企業、学校、行政など
イベントをお考えの方へ

フレンテみえでは、男女共同参画をたくさんの方に知っていただくことを目的に、まちのイベントやおまつりに出向く「出前フレンテ」を行っています。

フレンテ作成の展示パネルを職員が説明しながら見ていただいたり、「女性は家事、男性は仕事に賛成?」などに「はい・いいえ」で答えられる簡単なアンケートを行ったり、楽しみながら男女共同参画を知っていただける機会になっています。

主催者の方とイベントの内容など打ち合わせの上、フレンテみえからパネルなどの教材をお持ちしています。企業の研修や学園祭にもお伺いしますので、ぜひお声かけください。



Event Report

総文パープル・ライトアップ2017

毎年11月12日から25日までは「女性に対する暴力をなくす運動」期間です。

この期間に合わせ、フレンテみえでは、女性に対する暴力根絶の願いを込めて、シンボルの「パープルリボン」にちなんだパープル・ライトアップを今年も三重県総合文化センター祝祭広場で実施しました。



期間内は、女性に対する暴力の根絶の願いをこめて、来場者に小さなパープルリボンをパネルに貼り付けてもらい、大きなパープルリボンをつくるミニイベントも開催しました。3年目を迎えた2017年は、県内22市町との連携開催のほか、男女共同参画フォーラム2017、女性に対する暴力防止セミナーなどの会場にも出張イベントを行い、大勢の方にご参加いただきました。



平成29年度フレンテみえエンパワーメントスクール 働く女性のためのロジカルシンキング講座

開催日 1月13日(土)

フレンテみえでは、女性の皆さんに今より一歩前に踏み出す力を身につけてもらうために女性のためのエンパワーメントスクールを実施しています。

今年は、日本教育大学院大学 特任教授である内田友美さんをお招きし、「ロジカルシンキング(論理的思考)」をテーマに、働く女性がさらなる一歩をふみだせるよう講座を実施しました。

参加者の皆さんは、1日を通して頭をフルに使ってたくさんのワークに取り組むことで、職場で役立つ論理的な考え方・伝え方を理解し、自分のものにすることができたようです。

多様な働きかた、多様な人材が求められる今だからこそ、女性の意見や女性の視点を活かした働き方が必要とされ、そのためにも働く女性が声をあげていくことが不可欠とされています。フレンテみえでは、誰もが活躍出来る社会づくりを目指し、今後も様々な女性を応援していきます。



情報コーナー
ミニセミナー

笑顔が増える両立のヒント ～働く、育てる、暮らす。暮らしの工夫編～

開催日 1月27日(土)

家事・育児など家のことは女性に負担がいきがちなのが現状です。女性だけでなく家族みんなで家のことも担ったり、多忙な中でどの様に自分の時間を確保するのか、日々それぞれが実践している両立の工夫。それについてみんなで話すことで、他の人からヒントをもらえたり、与えたりできたら…と実施した今回のミニセミナー。アットホームな雰囲気の中、自分だけで家事や子育てを抱えないための家族との分担の方法や、家事を効率化するためのアイデアなど、様々な情報交換を行いました。「家事はみんなでするものなので『手伝う』という言葉を使用しない」「ルーティン化して効率をあげる」「いるものを厳選し、管理の手間をなくす」「してもらったことに不満をぶつけるのではなく、『ありがとう』と感謝を言葉に出して伝えあう」等々、みなさんの様々な暮らしの工夫が次々に披露され、あっという間に時間がたっていました。「みんな独自のやり方があるって感心した」「日々試行錯誤し、進化し、がんばっている様子に勇気づけられた」「早速トライしてみたい」等の声が聞かれ、今日得た新たなヒントとともに、みなさん笑顔で帰っていかれました。



『源氏物語』に埋め込まれた本当の声

河原 徳子(朗読文学サークル パティオ主宰)

『源氏物語』は、誰もが知っている世界的な日本文学作品です。その評判だけを知っていて、原文または現代語訳などに目を通したこともない人にとっては、<光源氏という男が、次々に女性を取り換えて恋をしていく、ふしだらな物語>だと思っているかも知れない作品でもあります。古来、この作品を研究してきた人たちに男性が多かったこともあったでしょうが、どうしても解釈に男の側からの思い入れが入ってしまうという不幸もありました。

私は<『源氏物語』を原文で読む>講座を十年間続けています。一行もとばさず、きっちりと原文を朗読しながら読み解いていくうちに、作者紫式部が物語の中に埋め込んだ強い思いが伝わってくるようになりました。

その中で一番胸を打つのが、源氏の「正妻」(実は正妻ではなかったことを後で思い知らされるのですが)である紫の上という女性の一生です。彼女は物語の中でも最も魅力があり、理想的で幸福な女性であるかのように解釈されることが多かったのですが、深く読んでいきますとそれとは程遠いことが分かってきます。

「女ほど身の処し方が窮屈で、かわいそうな者はありません。悲しいことも楽しいことも分らないような感じで誤魔化して、人前にも出ないで暮らしているのでは、どうして生き甲斐のある人生を歩めるでしょうか!」

源氏や紫の上の次の世代の息子たちの恋愛事件を知った折に、紫の上が放った言葉です。それまで「理想の妻」として、強い言葉も発しなかった紫の上が非常に毅然とした言葉を放ったことで読者は驚かされます。

しかしここで初めて、紫の上が自我を抑えて夫である源氏に期待されている女性像に合わせて生きてきたことに読者は気づかされるのです。

この紫の上の言葉は、まさに人間として絶対的な不満を爆発させており、時代と社会の中で本来の姿を歪めて生きねばならない女性の真の姿を見抜いている言葉です。これは作者である紫式部が、女性というものの不自由さ、自分の言いたいことも言えない抑圧された存在であることをしっかりと自覚して登場人物に語らせたということです。物語はこの後、源氏が世間の思惑や他人の目を気にして、何も実行できない様を描いていきます。紫の上の死後物語の主人公である筈の源氏を中途半端に舞台から消した紫式部が、真なる主人公を女性達に籠めたというのは確かでしょう。

1000年以上前、抑圧された女性の姿を物語の中に埋め込み爆発させた、作者紫式部の強い思いに心から感動してしまいます。

河原 徳子

- 徳島市生まれ
- 日本文学研究家
- 三重県生涯学習センター講師
- 「朗読文学サークル パティオ」(4部門)主宰
- 三重県立図書館・鈴鹿市民大学文芸学科・愛知県豊明市立図書館・安城市立図書館・知立市立図書館・菟野町文学講座・五十鈴塾文学講座・亀山市文学講座その他で、古典文学から近代文学まで講座講師を務める
- 鈴鹿市文芸賞選考委員
- 鈴鹿市文化振興ビジョン策定委員
- 主な著書『となりの文豪』(風媒社)



新刊紹介

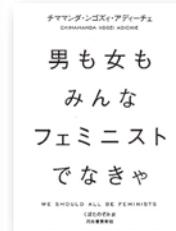
知ってますか?
フレンテみえの
情報コーナー



フレンテみえ1階にある情報コーナーでは男女共同参画に関する本、雑誌が無料で借りられます。(事前登録要)
新刊も続々登場!新刊の一例をご紹介します。



情報コーナーでWi-Fiが使えるようになりました!
SSID、パスワードなど、詳しくは掲示してある貼り紙をご覧ください。



男も女もみんなフェミニストでなきゃ

チママンダ・ソグズィ・アディーチェ(著)
くぼたのぞみ(翻訳) 河出書房新書

全世界で話題になったTEDスピーチの邦訳。ジェンダーをめぐる問題や、「フェミニスト」という語のイメージとこれからのあり方について自身の経験を交えて分かりやすく語られています。100ページ程度のとても読みやすい本です。



「男損」の時代「熟メン」が人生をソンしない18の知恵

牛窪恵(著) 潮出版社

日本の中老年男性の幸福度は世界的に見ても極端に低いと言われています。著者が「熟メン」と称すこの世代は最も「男らしさ」の呪縛に縛られている世代なのかも。そんな「熟メン」たちの実態や、新たな人生の楽しみ方を見つけた方の事例が紹介されています。

4回シリーズ「三重県の男女共同参画の最近の動きと、これから」第4回目

三重県男女共同参画審議会会長 小川 眞里子

第4回

誰もが自分らしく生き生きと活躍できる社会に

三重県に限らず一般に男女共同参画センターの前身は、婦人総合施設や女性センターであり、事業内容は総じて女性のエンパワーメントを目指すものです。内閣府男女共同参画局における位置づけも、名称はどうであれ女性センターという括りになっています。

女らしさというジェンダーの縛りから女性が自らを解放し、自分らしい活躍の場を拓いていくことは大変に喜ばしく、近年の女性の活躍はそれらの成果でしょう。しかし一方で、共に社会を形成する男性が実はジェンダーの縛りの中で辛い思いをしていることも明らかになってきています。女性が自分らしい生き方を目指したいのであれば、会社でも家庭でも男性の理解こそ重要であり、男性も自分らしく活躍して欲しいと思います。

団塊の世代が定年を迎えるころから男性講座が賑わい始めました。彼らより上の世代の男性が「粗大ごみ」「濡れ落ち葉」と揶揄された反省を踏まえて、男性の自立に向けた取り組みが始まったわけです。その意味で、実際の男の料理教室、パパの育児教室（じじの予備群）といったノウハウの学習は大切です。しかし、もっと重要なのは男性自身が固定的な男らしさの呪縛から自らを解放することです。

これは定年後の男性よりもずっと若い20代や働き盛りと言われる男性をターゲットに考えるべき問題です。本音や弱音を吐くことをタブー視するのではなく、男性が自分の気持ちを上手に相手に伝える能力、すなわちコミュニケーション能力をいかに向上させるかです。男性学の権威の一人である伊藤公雄さんも、男性の暴力とコミュニケーション能力の欠如との密接な関係を指摘しています。

近年「フレンテみえ」では、男性のこうした面でのサポートに力を入れているようです。平成28年暮れの「男性のためのコミュニケーショントレーニング」は25名の参加者で4段階満足度のトップが92%と好評。これを受けて同じ講師で29年は2日のプログラムにして、同じく81%、91%の好評ぶり。その他にも、『男は泣くな』はもう古い！」「20代男子の本音トーク」「知って得する男の更年期」などが開催されています。さらに本誌が出るころには「おとこの“あみもの”どんなもの？」まで。

男女共同参画は参画を阻害されてきた女性に焦点を当ててきましたし、それは今後もまだまだ必要です。しかし男性もまた、男らしいとされる役割の重圧に苦しんでいるのであれば、男女共同参画社会の実現は男性にとっても生きやすい社会となるはず。そうした理解を拡大して、男性の賛同者を増やそうとする動きもあり、明確にそれを打ち出しているのが国連のUN WomenのHe For Sheキャンペーンです。これは男女を問わずすべての人がジェンダー平等（男女共同参画）の実現に向けた主体者となることを意図した署名運動で、2014年に親善大使となった女優エマ・ワトソンによって世界的な周知が図られました。男女共同参画社会の推進は、女性をエンカレッジするだけでは限界があり、男性の理解者や支援者の輪を広げないことには難しいのです。そこを踏まえてさらに共に生きるダイバーシティ社会へとという広がり求められているのです。

執筆 小川 眞里子さん

(三重県男女共同参画審議会会長)

三重県の男女共同参画関係では平成7年10月から4年間、男女共同参画推進協議会委員を務める。平成27年より現職。専門は科学とジェンダーおよび19世紀医学・生物学史。三重大学名誉教授。

フレンテみえって、なに？

三重県の男女共同参画社会を推進する拠点施設として津市の三重県総合文化センター内に平成6年オープン。情報発信・研修学習・相談・調査研究・参画交流という「5本の柱」で、様々な事業を展開しています。ぜひ皆さま、お気軽にお立ち寄りください！

～詳しい情報はホームページまで～

フレンテみえ

検索

生き方・家族・人間関係・離婚・職場 などなど…
男女がともに自分らしく生きるために、様々な悩みの相談をお受けします

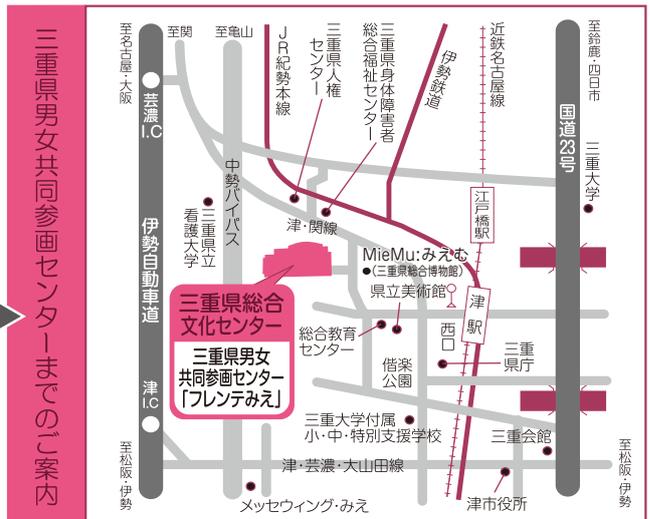
女性のための電話相談 秘密厳守・相談無料

フレンテみえ相談室 専用ダイヤル 059-233-1133

相談時間	曜日	月	火	水	木	金	土	日
朝	9:00～12:00	●	●	●	●	●	●	●
昼	13:00～15:30	●	●	●	●	●	●	●
夜	17:00～19:00	●	●	●	●	●	●	●

※ 祝日の場合「朝・昼」相談あり（翌平日が休館日）

フレンテみえ相談室の案内
(切り取ってご利用ください)



休館日 毎週月曜日
年末年始 (12月29日から1月3日まで)

交通 ■バス/津駅西口1番のりばから約5分
■徒歩/津駅西口から約25分
■自家用車/伊勢自動車道芸濃インターから約15分、津インターから約10分
※駐車場は1400台(無料)。できるだけ公共の交通機関をご利用ください。

発行 三重県総合文化センター
三重県男女共同参画センター フレンテみえ
〒514-0061 三重県津市一身田上津部田1234番地
TEL:059-233-1130 FAX:059-233-1135
URL http://www.center-mie.or.jp/frente/
E-mail: frente@center-mie.or.jp

再生紙を使用しています。

Design : Graphica